



個々の発達に応じて

副園長 池田 克子

アジサイの花がきれいに色付き始めました。新入園児も進級児も幼稚園での生活に慣れ、幼稚園には元気な子どもたちの声が響いています。3歳児はままごとやブロックで遊んだり、砂場でごちそうを作ったりなど、自分のしたい遊びを見つけて担任や友達と安心して過ごせるようになりました。4歳児は、お医者さんごっこや紙芝居屋さんごっこなど、イメージをもって役になりきったり、新しい友達との関わりを楽しんだりしています。5歳児は、屋上で靴鬼をしたり、一輪車に繰り返し取り組んだりなど、体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。その中で、友達と一緒に考えを出し合いながら遊んだり、自分なりの目的をもって挑戦したりする姿が見られています。

さて、5月中旬より3歳児のお弁当が始まりました。今は感染症拡大予防から食事中に話をすることはできませんが、どの学年の子どもたちも先生や友達と食事をする楽しさを感じているようです。

スプーンやフォーク、箸を使って食事をしていますが、時々持ち方が気になる子どもの姿が見られます。箸をしっかり持つためには指先の発達に合わせて進めていくこと、そのためにはスプーンとフォークを正しく持って使えるようになってから箸に移行していくことが大切です。箸を進める際には、スプーンやフォークの上握り→下握り→鉛筆握り、そして箸へと移行するとしっかりと箸が使えるようになります。まずはお子さんの持ち方を確認し、食事の時に正しい持ち方を知らせてあげるといいですね。スプーンやフォークの上握りは1歳頃から、下握りは2歳頃から、鉛筆握りは3歳頃から、そして3歳後半頃に箸へ移行していくとよいとありますが、年齢は目安と捉え、焦らずにお子さんの指先の発達に合わせて進めていきましょう。また、自分に合った箸を使うことで正しい箸使いが身に付きやすくなります。箸の使い始めは、木製の滑りにくいもので丸いものよりも三角や四角のものがよいそうです。箸の持ち方はあらゆる道具を駆使する基本形の習得にもつながります。身近なところでは、鉛筆やペンが正しく持てるようになります。早く箸を持つことがよいのではなく、お子さんの指先の発達を見ながら段階を経て正しく箸が持てるようにしていけるようにしましょう。何か心配なことがありましたら、いつでも幼稚園にご相談ください。幼稚園と家庭と共にお子さんに合った援助を考えていきましょう。



お弁当の様子(3歳児)



お弁当の様子(4歳児)



お弁当の様子(5歳児)